

## 2022 年度 JSAF 方針

昨年度、東京 2020 オリンピック競技大会が成功裏に終わり、未曾有のコロナ禍に対してウイズコロナ・ポストコロナの新しい日常を考えて行く時期にある。スポーツ界もセーリング界も、新しい時代と新しい生活様式に合わせて変わって行かなければならない。今年度は、馬場益弘会長以下の新しい体制に移行し、次の目標に向かってスタートを切る。

セーリングは、「男女を問わず、年齢を問わず、障がいの有無に関わらず、誰もが自分に合った楽しみ方ができる」という価値を持つインクルーシブなスポーツである。この強みを連盟の活力の源泉とする。

連盟は、セーリングスポーツのより一層の普及・振興・発展のために、会員と加盟する団体とともに連盟の力を結集し、新しいチャレンジを行う。

### 【基本方針】

- 1 《中長期計画》JSAF VISION「セーリングをもっと楽しく Maximize fun of sailing」の実現に向けて、中長期計画をスタートする。
- 2 《普及》会員や加盟する団体以外の人・団体に対し、セーリングの魅力を発信し、関心や接点を提供し、認知度を向上させ、セーリングを普及させる。また、年齢や環境が変わっても誰もが自分に合ったセーリングを続けられるように、セーリングスタイルの多様性を守り、生涯スポーツとしての価値を高める。
- 3 《強化》新しい「勝ちに行く体制」を構築し、2年後に迫ったパリ 2024 オリンピック競技大会でのメダル獲得を目指す。加えて、ジュニア・ユース世代を育成するとともに、キールボート、外洋、パラ・インクルーシブなど、多様で幅広いセーリングを支援し、強化する。
- 4 《CS》連盟の会員や加盟する団体に対し、連盟に関わり続けることに満足できるサービスやメリットを提供するとともに、マーケティング施策の成果を会員に還元する。
- 5 《ブランディング・マーケティング・広報》セーリングをブランディングし、戦略的なマーケティング施策と広報施策を実施することにより、セーリングと連盟を応援する個人・企業・団体を拡大する。
- 6 《環境》「残したいのはきれいな海」をスローガンにし、会員や加盟する団体、パートナー・サポーター共に、海洋環境の保全に全面的に取り組み、これを社会に対して広く発信する。
- 7 《DEI》セーリングには、ジェンダー平等と障がい者参加を含む「Diversity, Equity and Inclusion」（DEI、多様性・公平さ・包括）の価値が内在することを強く認識し、DEI を推進する先進的な競技団体になることを目指す。

- 8 《グッドガバナンス》継続的に人材を登用して育成し、ガバナンスを強化し、スポーツ・コンプライアンスを遵守できる組織体制を整える。
- 9 《社会貢献》公益法人としての社会的責任を果たし、日本社会及び国際社会に貢献する。
- 10 《安全》連盟の会員や加盟する団体の間で全国のヒヤリハット体験等の情報を共有することにより、事故の発生と重大化の回避を目指すセーフティセーリングを浸透させる。

#### 【中長期計画の実現に向けた初年度の重点施策】

##### I. もっと身近になる (Easy Access)

- (a) 「Start Sailing」を拡大し、セーリングの開始や再開の場を提供する。
- (b) セーリングの普及や育成のために、eSailing を活用する。

##### II. 関わり続ける (Open Community)

- (c) 海洋環境問題への取り組みを拡大し、この取り組みを社会に対して広く発信する。
- (d) ロサンゼルス 2028 パラリンピック競技大会におけるセーリング競技の復活に向け、障がい者セーリングを推進し、選手を強化する。
- (e) ジェンダー平等と障がい者参加を含むインクルーシブな取り組みを推進し、それらの成果を広く社会に発信する。
- (f) 加盟する団体間や他の組織（自治体や企業、個人、マリーナなど）と連携し、セーリングに関わるコミュニティを創設し、地域振興に貢献する。
- (g) セーリングを通じた海洋教育・安全教育を地域や学校に提供する。
- (h) 透明性の高い運営や、健全な財政、組織の強化を含むガバナンスの強化のために、規程改正と人材配備を含む組織改革を続ける。
- (i) 連盟の基幹業務について、効率化等の観点から業務を見直しつつ、次世代に引き継ぐための体制を整備・維持・強化する。

##### III. もっと強くなる (High Performance)

- (j) オリンピックでメダルを獲得できる選手を、継続的に輩出できるしくみを構築する。
- (k) HOPE 育成プログラムの完成度を高め、ジュニア・ユースからシニアトップアスリートまでのシームレスな育成を実現する。
- (l) Team JAPAN（日の丸セーラーズ）の結束力を強化し、人間力とインテグリティ・レベルを向上させる。
- (m) 委員会横断による選手を取り巻く支援体制を構築し、増強する。
- (n) 選手強化環境を再整備する。

- ① トップレベルの競争環境の提供

- ② 差を明確に認識できる仕組みの構築
  - ③ 差を埋めるための方法・知識の提供
  - ④ 攻める気持ちを維持できるトレーニングの提供
  - ⑤ 反映できる身体・神経能力の取得ができるトレーニングの提供
- (o) オリンピック種目に偏ることなく、キールボート、外洋、障がい者セーリングなど、総合的に強化する。
- (p) アスリートの社会への情報発信と交流を支援するために、研修・教育を実施し、それらの環境を整備する。